

正 誤 表

正

P. 3 (前回調査年の表記を訂正)

5. 筑波研究学園都市で働く職員の抑うつ度 (図 6)

抑うつ度の調査については、前回 (2011 年) までは 20 項目の質問から構成されるうつ性自己評価尺度 (SDS ; Self-rating depression scale) を用いていたが、ワーキンググループ内で易回答性を検討した結果、今回は 6 項目の質問から構成される K6 を用いることとした。K6 の得点は 0 から 24 の範囲で、高得点ほど気分・不安障害の可能性が高い。前回と今回では評価法が異なるため、結果を比較することはできなかった。

今回の調査では、全体の平均が 5.5 点で中央値が 4 点だった。また、全体の半数近くの 2,030 人が 5 点以上で、全体の約四分の一の 984 人が 9 点以上であった。5 点以上の群には心理的ストレスが認められ、9 点以上の群には 50% の確率で気分・不安障害が認められるとされている。性別では女性 (平均値 5.9 点 ; 中央値 5 点) が男性 (平均値 5.3 点 ; 中央値 4 点) より高かった。年代別では 20 歳代 (平均値 6.6 点 ; 中央値 6 点) が最も高く、高い年代ほど低かった。職種別では事務系 (平均値 6.0 点 ; 中央値 5 点) が最も高かった。雇用形態別では派遣職員 (平均値 6.4 点 ; 中央値 5 点) が最も高く、常勤職員 (任期付き) (平均値 5.6 点 ; 中央値 4 点)、非常勤職員 (平均値 5.5 点 ; 中央値 4 点)、常勤職員 (任期なし) (平均値 5.4 点 ; 中央値 4 点) が同程度であった。

P. 5 (調査実施機関数の内訳を訂正)

表 1 調査実施機関数

表1 調査実施機関数

地方自治体	1
国の機関	6
国立研究開発法人等	11
独立行政法人	4
国立大学	2
学校法人	3
公益法人	12
民間機関	14
合計	53

誤

P. 3

5. 筑波研究学園都市で働く職員の抑うつ度 (図 6)

抑うつ度の調査については、前回 (2006 年) までは 20 項目の質問から構成されるうつ性自己評価尺度 (SDS ; Self-rating depression scale) を用いていたが、ワーキンググループ内で易回答性を検討した結果、今回は 6 項目の質問から構成される K6 を用いることとした。K6 の得点は 0 から 24 の範囲で、高得点ほど気分・不安障害の可能性が高い。前回と今回では評価法が異なるため、結果を比較することはできなかった。

今回の調査では、全体の平均が 5.5 点で中央値が 4 点だった。また、全体の半数近くの 2,030 人が 5 点以上で、全体の約四分の一の 984 人が 9 点以上であった。5 点以上の群には心理的ストレスが認められ、9 点以上の群には 50% の確率で気分・不安障害が認められるとされている。性別では女性 (平均値 5.9 点 ; 中央値 5 点) が男性 (平均値 5.3 点 ; 中央値 4 点) より高かった。年代別では 20 歳代 (平均値 6.6 点 ; 中央値 6 点) が最も高く、高い年代ほど低かった。職種別では事務系 (平均値 6.0 点 ; 中央値 5 点) が最も高かった。雇用形態別では派遣職員 (平均値 6.4 点 ; 中央値 5 点) が最も高く、常勤職員 (任期付き) (平均値 5.6 点 ; 中央値 4 点)、非常勤職員 (平均値 5.5 点 ; 中央値 4 点)、常勤職員 (任期なし) (平均値 5.4 点 ; 中央値 4 点) が同程度であった。

P. 5

表 1 調査実施機関数

表 1 調査実施機関数

地方自治体	1
国の機関	6
国立研究開発法人等	1 1
独立行政法人	4
国立大学法人	2
学校法人	1 2
公益法人	3
民間機関	1 4
合計	5 3